

(議事録・WEB 公開用)

令和 2 年度第 2 回図書館協議会

日時令和 2 年 10 月 21 日 (水) 午後 2 時から図書館多目的室

出席

委員

足達委員、木村委員、丸田委員、梅景委員、浅田委員、
岡田委員、田中委員、真弓委員、村瀬委員、山田委員、
馬淵委員、武藤委員、今関委員、岸本委員

事務局

細谷教育部長、林教育部次長、松本館長、西村副館長、佐藤参事、天谷主査

1 開会

2 あいさつ

【教育部長】

今年度上半期は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行う中、様々な図書館活動、行事等を中止していた。8月中旬より徐々に再開し、市民の皆さまから好評を得ている。

特に子どもたちに対して、夏休みが短縮される中、自宅で過ごす時間を少しでも有意義に過ごしてもらうため、本の紹介や展示を活発に行い、必要とする本に出会えるよう努め、夏休みの貸出冊数については昨年と同程度の、約 9 万冊の利用があった。

10 月からは、地域活動ガイドラインが緩和され、図書館の貸館施設も利用しやすくなるとともに、学習コーナーも 6 月から半数に制限していたものが 50 席全面開放され、人々が図書館に戻ってきていただいている。

図書館としては、引き続き、感染拡大防止に努めながら、本に親しんでもらう機会づくりに努め、様々な方法で資料を届けられるよう、職員一同懸命に取り組んでいく。

本日の協議会では、図書館の上半期の活動や行事の再開等について報告するとともに、下半期に行われる主な行事や、活動計画の進捗状況についてご説明申し上げます。

委員それぞれの立場や図書館を利用して感じられたことを通して、協議いただきたい。

【会長】

今日配布された滋賀銀行の情報誌『かけはし』2020 年秋号には、滋賀県の図書館の簡単なあゆみが記されている。また、元滋賀県立図書館長・前川恒雄さんのことに触れられている。前川さんは 4 月に神戸で亡くなられた。

このことに関して、いくつかの新聞社が追悼記事を書いたが、共同通信からはインタビューを受けた。記者が追悼記事を書こうと思った理由が、『移動図書館ひまわり号』（前川恒雄著, 夏葉社, 2016）を読んで感動したからとのこと。筑摩書房から出ていたが絶版になり、数年前に夏葉社が復刊した。『かけはし』『ひまわり号』をぜひ読んでいただきたい。

3 報告事項

【会長】令和2年度上半期の活動状況および利用状況について①活動内容および統計資料、②再開等した図書館行事について、事務局より続けて報告をお願いします。

【事務局】資料に沿って説明。

守山北高校おはなし会についても9月から再開した。実際に行っている職員と、高校図書館に勤務されている委員から報告をお願いします。

【事務局】9月16日に実施。1つの学年の全クラスに職員5名で行かせてもらった。絵本の選定については相談しながらそれぞれが決定する。2・3年生は習慣化しており、よく聞いてくれるが、今回は1年生が集中して聞いてくれたので驚いた。アンケートの中では「よくなかった」という意見もある。「人に読んでもらうこと自体が嫌い」という意見もある。守山は絵本の読み聞かせが盛んな地域。司書として関われることは嬉しいと思う。本に触れる一つのきっかけとなってほしい。

【委員】高校図書館に勤務している。図書館から読み聞かせに来ていただいて10年になる。読書習慣を身につけるため、提案した。最初は先生が取り組んでいたが、うまく浸透しなかった。外部から知らない方に来ていただいたら生徒も緊張感をもって、集中して聴けるのではないかと思った。

『本を読んで甲子園へ行こう！』（村上淳子著, ポプラ社, 2000）を読んで、「これだ」と思った。

毎年アンケートを取っているが、徐々に落ち着いて聴けるようになっている。「よかった」が6割。「どちらでもない」35%だが、理由がいろいろあり前向きな意見もある。朝の読み聞かせが浸透していて普通のことと捉えられているのではないか。「嫌だった」は6%であった。

朝読書の回答は「よかった」が40%。生徒は朝読書よりも読み聞かせの方が良いと感じているようだ。保育士を目指している生徒も多く、勉強になったという意見がある。生徒に読み聞かせをしてもらうと、とても上手にしてくれる。子どもの頃、両親に読み聞かせをしてもらったときとは違った聞き方、感じ方ができている。

昨年までは読み聞かせの日だけ朝のHRが5分遅く終わるため、そのことが「嫌だった」

という意見もあった。今年は終わる時間をすべて揃えたので、また違った感想が出るかもしれない。

図書館の利用は減っているが、本は自分で持っていたい、買いたいという生徒が増えてきているようだ。感染対策として、返却本を生徒の前で除菌するようにした。「きれいにしてもらっている」と良い印象がある。

【事務局】以上、報告とします。

【会長】質問があればお願いします。

【委員】（貸館で実施中のギャラリー「Root for people フラッグ展示」（観光物産協会連携）について、またカフェでのTシャツ販売についてご紹介）

カフェでのTシャツ販売は100枚を目標にしていたが300枚売れた。医療関係機関に寄付する予定だ。

【委員】図書館の場所を使って地域のいろいろなところとの協働が、どんどん展開できるとよい。

【委員】高校生への読み聞かせについて、良い取り組みと思う。ただ、これをどう思うか皆さんにお聞きしたい。高校という場所で取り組むことがどうなのか。自立性を育てるといふ観点からはどうか。「嫌だった」点で、「子ども扱いされた」というものがある。

私も同じことを言われた経験がある。滋賀県の教育委員をしていたときに守山高校の先生から講演依頼があり、自分の作品といくつかの絵本の紹介をした。その生徒は怒っていた。思春期の子どもに接することは、難しい。

それよりも図書館の資料を充実させて、もっと多くの本を子どもたちの近くに置くことが大切と思う。その時の反省として学校図書館は、資料の充実が第一ではないかと思った。このことについて議論してほしい。

【会長】いわゆるヤングアダルト世代への対応について。本を読むという本質にも関わる意見と思う。

【委員】中学校の校長をしている。高校生への読み聞かせについては、初めて聞き「そういうこともできるのか」と驚いた。

中学校では図書室が3階の隅のとても不便な場所にある。学校司書に来ていただいて整理をしてくださり、レイアウトもよく考えてくださっている。

しかし、利用が少ない。特定の生徒しか利用していないと聞いている。活字離れもあるし、学習の中で国語辞典・英和辞典などを利用する機会も減っている。タブレットが普及し、それで調べることが当たり前になっている。本に触れる機会自体が減っている。

【委員】アンケートの中では、1年生に「嫌だった」という感想を持つ生徒が多い。

上級生になるにつれ生徒自身が大人になっていく。「最初は高校生にもなって絵本かよと思ったが、違う見方ができるようになった」と成長していく生徒をたくさん見てきた。

ある生徒は授業もしっかり聞けない状態だったが、読み聞かせだけは真剣に聴いていた。家庭環境のこともあって子どもの頃に読み聞かせをしてもらったことがなく、大切な時間だと感じていたようだ。

思春期真っただ中の生徒たちは、大人扱いも子ども扱いも難しい。1年生は特に子ども扱いされることに敏感。成長するにつれ絵本そのものの面白さに気づいてくれている。

【委員】自分の息子のことを思い出した。高校1年生の秋に、担任の先生が、秋の満月がきれいだった日の翌日にアーノルド・ローベルの「おつきさま」(『ふくろうくん』(文化出版局, 1976) 所収) を読んでくれた。絵本だからというのではなく、人間同士の共感が得られた経験だったと思う。

高校生への読み聞かせについては是非はわからないが、絵本は決して幼稚なものではなく、必要としている人の心に響くものだと思う。大人にしかわからない絵本もあるし、高校生が感銘を受けるものもある。

【委員】職員のブックトークを聞いたことがある。会館での人権に関するブックトークだった。司書がブックトークをするとこんなにもすごいのかと感じた。

図書館サポーターの中に、個人的な活動として街中で知らない人に絵本を渡す活動をしている方がいると聞いた。図書館に関わる者として、もっと本に対して謙虚であるべきではないかと感じた。本の力はよくわかっているつもりだが、自分自身で面白いものに出会うことが自立のために大切ではないかと思う。

【委員】自分の高校時代を思い返してみると、読み聞かせに対しては「子ども扱いされている」と感じるだろう。しかし、読み聞かせは絵本との親密な時間になる貴重な取り組みだと思う。そして、読み聞かせそのものは思想の押し付けにはならないと思う。

図書館が様々な興味を持っている子どもたちに様々なアプローチをすることは重要な取り組みだ。

ある新聞の記事によると、子どもたちは本を読まなくなっているばかりでなく、それ以上に興味を持つ対象がなくなっているということだ。興味を持てれば知るためのツールが

必要になるし、図書館はそれを提供する施設である。

しかし、何に興味を持っているのかわからない、興味を持つ対象が見つけれない子どもが増えている。子ども自身の興味をかきたてることが大事になってくるのではないか。

【委員】少し前、京都新聞1面下段のコラムに「読み聞かせに違和感がある」という主旨のものが出た。(※10月5日朝刊、澤田康彦著「新暮らし歳時記 定番絵本 読み聞かせ」)

子どもたちへの向き合い方を考えることが大切だ。読み聞かせに対して「嫌だ」という子どもたちにも向き合う必要がある。

4 協議事項

【会長】令和2年度下半期の活動予定および令和2年度活動計画の進捗について、事務局からお願いします。

【事務局】資料に沿って説明。

【会長】ご質問がありましたらお願いします。特になければ、課題の中で2つ、皆さまにお聞きしたい。

1つは「今後のおはなし会の持ち方について」、もう1つは「学校司書の配置」について。順番にお願いします。

【委員】おはなし会は、楽しみにされている方も多いと思うので、感染対策防止をしっかりとしながらやっていただければよい。学校司書については、大変ありがたいと思う。

【委員】おはなし会は感染対策をしっかりと進めていただきたい。おはなしについては口元が見えることが重要ではないか。高校生の読み聞かせは、興味を持ってもらえる形をいろいろ考えて取り組めばよいのではないか。

学校では、タブレット1人1台配っている。本を読む機会はどんどん失われている。自分の家族が『半沢直樹』のドラマをきっかけに、池井戸潤の原作小説を読むようになった。きっかけづくりや工夫が大切ではないか。

学校司書については助かっているが、学校側もうまく活用しきれていない面がある。これからの課題だと認識している。

【委員】幼稚園に勤務している。前年までボランティアグループにおはなし会に来てもらっていたが、今年は休止となってしまった。保護者ともども再開を待ち望んでいる。

読み聞かせにおいて口元が見えることはやはり大切。子どもたちは口元をよく見ている。

担任も絵本を毎日読んでいるが、外部から来ていただいて園にない本を読んでいただくことは子どもたちの興味が広がる。「図書館に行きたい」と言う子どもも多い。

【委員】学校図書館としては、生徒たちに経験やきっかけづくりを与えていきたい。学校司書がいるといないとでは学校図書館の利用率が全然ちがう。高校図書館においては昼休みや放課後だけでなく、小休憩・授業中でも空いていることが生徒にとって重要な居場所となっている。そういう環境が小中学校にもあることが大切だと思う。

小学校は授業で図書館を利用しているようには聞かすが、中学校は図書館の活用が十分ではなく図書館への興味関心が薄れていく原因になっていると聞いたことがある。中学校にも司書がいる時間を増やして欲しい。

【委員】図書館でサポーターとして古典の講座を行っている。

読書週間のPOPについて意見を。リラックスできるものだけでなく、より勉強に興味を深まるものを紹介してはどうか。自分自身、高校時代に『恋する伊勢物語』（俵万智著, 筑摩書房, 1992)に出会い、大学で勉強するきっかけとなった。

そのような出会いのきっかけを作ってほしい。

【委員】読み聞かせのボランティアをしている。今年度は話し合った結果、休止となった。小学校図書館のボランティアを週2回していたが、それもなくなった。

学校図書館には学校司書が来てくださっているが、回数が少ないと聞いている。毎日でも来てほしいと思う。

【委員】サポート隊でビデオクラブをしている。今年度は活動数が減っているが、図書館の手助けができるように続けていくのでよろしくお願ひしたい。

【委員】学校に読み聞かせのボランティアに行っていた。今年は休止している。

朝15分の読書タイムがあると1時間目の授業に入りやすいと聞いている。

運動が好きな子、読書が好きな子、さまざまいる。それぞれの子どものよさを伸ばしていけばいいのではないか。

高校生の読み聞かせでも、一言説明してからするなど工夫があるとよいのではないか。自分自身も子どもの成長を願って、本の紹介を続けていきたい。また、地域文庫にも携わっている。図書館には大変お世話になっている。

【委員】おはなし会に関して、回数を増やすことは？

【事務局】現在は職員だけで実施している。回数を増やす場合、ボランティアにご協力願うことになる。

【委員】自分がよく行く別の図書館はまだ貸館を再開していない。守山はいち早く貸館を再開してくださり、たいへんありがたく思っている。

【委員】市のガイドラインも緩和した。その中で可能な限り多くの行事を実施してほしい。

商工会議所でも学校へ市内創業者の体験談の出前講座を行っている。市長とともに「起業家が集まるまち」を目指して取り組んでいる。子どもたちも人と接することに飢えている。直接おはなしを聞く機会はよいと思う。

【委員】おはなし会については、県内の各館の取り組みが参考になる。距離をとるため、大型絵本を利用している館もある。口が見えるように透明のフェイスシールドを使っている館も。

やはり椅子ではなく、可能であればマットなど床に直接座った方が子どもたちはリラックスできると思う。ある館では丸座布団で席を指定して距離をとっている。

学校司書の配置は、すばらしいと思う。滋賀県立図書館でも2015年度から学校図書館の支援を行っている。学校図書館は、読書センター、学習センター、情報センターの3つの機能がある。その機能を果たせるようにしていかなければならない。

学校図書館を授業で使うことが大切。その中で、児童生徒に本を探してもらおう。そうすると何か興味のある本が見つかる。図書館を利用しない子どもはリニューアルしてもなかなか来ない。ある自治体で、多動の児童の事例を聞いた。通常の授業だとなかなか落ち着かないが、学校図書館で授業をすると他の児童と一緒にはりきって利用をしていた。

また、他の委員からも意見があったが、読書週間のPOPについては、いま学んでいること、興味のあることが深まる本の紹介ができればよいと思う。

【委員】高校生への読み聞かせをしていると聞いて本当に驚いた。自分自身は子どもが小学生の頃までは本を読み聞かせていた。子ども時代に絵本の読み聞かせをしてもらっていない生徒もいると思う。非常によい取り組みだと思う。

読書会の役員をしている。テキストをカウンターの前に出してもらえるようになり、たいへん助かっている。新館になってからは書庫にあったので、職員に鍵を開けてもらって利用していた。今の体制になって、非常に利用しやすくなった。

【委員】図書館がおはなし会に関して相談するということは、何か懸案事項があるという

ことか？

【事務局】ボランティアには高齢な方もいらっしゃるので、感染対策との兼ね合いで悩むところがあった。

【委員】おはなし会は、司書全体でよく取り組んでいることだと思う。人が足りないというのであれば、ボランティアで協力することが必要だと思う。

図書館として、司書だけであること方がいいのか、職員でよく検討してほしい。

9月からのおはなし会はずっとうまくいっていると思っていた。今回、課題としてあがってきたので、どう捉えたらいいのかと思った。

学校司書については、以前からその必要性を訴えてきた。学校司書のいる図書館は生き生きしている。守山中学校高校図書館を見るとそれがよくわかる。ぜひ継続し、より充実した体制にしてほしい。

「図書館おななし隊」に、同じ町内の人が入った。連れ合いを亡くされたが、図書館で活動することにより元気になられた。図書館は人と人を結びつける力があると改めて感じた。

【会長】今の意見をくみ取って、おはなし会については進めていただきたい。

また、おはなし会の動画作成について、全国で実施した館もあるし、著作権の問題で実施できなかった館もあった。守山の場合は、許諾を取りやすい、つながりのある作者の方が多いのではないかな。それを財産として活用していくとよい。

また、学校司書についても今年度始まったことが目に見える形で成果として出すことが必要だと思う。ぜひ工夫してほしい。

【委員】予約図書の受け渡しについて、速野・中洲については上半期で前年の数値を大きく超えている。考えられる要因はあるか？

【事務局】新館ができて、いままで図書館自体を利用していない方が利用するようになった。そのうえで、遠距離の方が活用されるようになったのではないかな。また、コロナの影響もあると思う。

その他

【会長】事務局からあればお願いします。

【事務局】11月14日に滋賀県立図書館で開催される図書館協議会交流会についてご案内させていただきます。

第3回協議会は2月頃を予定しています。

【会長】次回もぜひご出席をお願いします。それでは進行を事務局に戻します。

【事務局】本日はありがとうございました。

5 閉会